

今週（2月28日から3月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通してレートは高水準で推移した。税揚げ等の資金不足要因があったことに加え、積み期間後半に入ったことから、地銀業態を中心に取引手の調達意欲が旺盛であり、週初から強いビッドが多く集まった。

無担保コールO/N物は、週初2月28日から3月3日に掛けて、邦銀勢の調達を中心に昨週よりも高い水準となる▲0.035～▲0.005%のレンジで出会いが見られた。週末3日積みとなる4日は、▲0.035～▲0.003%のレンジの出会いが中心となった。無担保コールO/N物加重平均レートは概ね▲0.01%前後での推移となり、徐々に上昇していった。ターム物に関しては、年度末越えの取引が可能である参加者が限定されることから、ショートターム物で▲0.01～▲0.001%近辺での引き合いが中心となった。日銀当座預金残高は540兆円程度で始まり、法人税・消費税や年金保険料揚げや10年・30年債の発行、2年債の発行超により、530兆円程度まで減少した。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.090～▲0.075%のレンジでの取引となった。積み最終にかけて投資家の資金調達が増加してきている。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペのオファー額は減額となったものの、ドル円ベーススプレッド拡大に伴う海外勢の需要増加などを受け、全体を通してやや堅調に推移した。

1日に実施された短国買入オペは、前回から1兆円減額の5,000億円でオファーされ、無難な結果となった。

4日に実施された3M物の入札は、WI取引で強い出会いが見られたこともあり、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、石油・石炭、機械業態等で大型発行が見られたものの、案件に乏しく償還超のマーケットとなった。2月末時点の市場発行残高は、26兆2,925億円と月末ベースの過去最高残高である1月末（26兆4,333億円）から減少したものの、引き続き26兆円台をキープした展開となった。

発行レートについては、新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移しており、特に発行頻度の低い稀少銘柄や年度末を超える銘柄に関しては強いマイナスでの買いも見られた。一方で発行残高の多い銘柄や期間の短い銘柄に関しては0%近傍の出会いが中心となった。

●短期金融市場関連指標

| | 日経平均 (円) | 新発10年物 国債利回り (%) | 為替 (ドル/円中心相場) | 無担保コールO/N (加重平均・%) | 東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%) | 日銀当座預金残高 (億円) |
|----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| 2/28 (月) | 26,526.82 | 0.180 | 115.55 | △ 0.012 | △ 0.087 | 5,397,100 |
| 3/1 (火) | 26,844.72 | 0.175 | 115.25 | △ 0.011 | △ 0.087 | 5,364,700 |
| 3/2 (水) | 26,393.03 | 0.131 | 115.00 | △ 0.010 | △ 0.086 | 5,295,000 |
| 3/3 (木) | 26,577.27 | 0.165 | 115.60 | △ 0.009 | △ 0.085 | 5,296,800 |
| 3/4 (金) | 25,985.47 | 0.150 | 115.38 | △ 0.009 | △ 0.083 | 5,295,000 |

来週（3月7日から3月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

| | 国内主要経済指標 | 国債等入札予定 | | | 海外主要経済指標 |
|----------|---|----------------------------|------------------------------------|--|---|
| 3/7 (月) | 2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) | | | | 1月の米消費者信用残高 |
| 3/8 (火) | 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) | 5Y 25,000億円 3/9発行 | | | 1月の米貿易収支 1月の米卸売売上高 10-12月期のユーロ圏GDP確報値 |
| 3/9 (水) | 10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 2月のマネーストック(日銀 8:50) | TB6M 34,000億円 3/10発行 | | | |
| 3/10 (木) | 2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) | 20Y 12,000億円 3/11発行 | エネルギー 対策借入 5,300億円 3/22借入 | | ECB定例理事会(金融政策発表) 2月の米財政収支 2月の米消費者物価指数 |
| 3/11 (金) | 1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 1-3月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50) | TB3M 57,000億円 3/14発行 | | | 3月のミシガン大消費者信頼感指数速報 |

●資金需給予想

| 単位：億円 | 銀行券要因 | 財政等要因 | 資金過不足 | オペ種類 | 期日分 | 新規実行分 | オペ合計 | 実質過不足 | 需給要因 |
|----------|---------|----------|----------|--------------|----------------|-------|-------|----------|-----------------------------------|
| 3/7 (月) | 100 | ▲ 12,800 | ▲ 12,700 | CP買入 社債買入 | ▲ 300 ▲ 100 | | ▲ 400 | ▲ 13,100 | TB3M発行▲57000償還43000 |
| 3/8 (火) | 1,000 | 2,000 | 3,000 | | | | 0 | 3,000 | 交付税借入▲10500期日10500 |
| 3/9 (水) | 0 | ▲ 8,000 | ▲ 8,000 | 社債買入 | | 1,300 | 1,300 | ▲ 6,700 | 5Y発行▲25000 |
| 3/10 (木) | 0 | ▲ 2,000 | ▲ 2,000 | | | | 0 | ▲ 2,000 | TB6M発行▲34000償還32400 |
| 3/11 (金) | ▲ 1,000 | ▲ 7,000 | ▲ 8,000 | | | | 0 | ▲ 8,000 | 20Y発行▲12000 交付税借入▲10450期日10450 |
| 週間合計 | 100 | ▲ 27,800 | ▲ 27,700 | — | ▲ 400 | 1,300 | 900 | ▲ 26,800 | |

3/7は日銀予想、3/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期終盤となるものの、レートが既に高水準となっており、概ね横ばい圏の▲0.01%前後で推移すると予想する。9日に発表される、3月積み期間に適用される基準比率は7.0~8.0%と若干の増加を予想する（2月期間4.5%）。レボ市場は、GC T/Nは、積み期間終盤の取引となり、▲0.085~▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、11日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、8日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、11日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。市場残高が過去最高水準で推移する中、直近の按分レートは3回連続で低下しており、按分レートがどの程度で決着するのか注目される。

主要なイベントは、国内では9日に10-12月期のGDP2次速報、海外では8日に10-12月期のユーロ圏GDP確報値、10日にECB定例理事会、2月の米消費者物価指数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。